災害被災者支援と災害対策改善を求める広島県連絡会（略称：広島県災対連）

広島災対連ＮＥＷＳ

NO30　2018 年 7 月 11 日発行

事務局：広島県労連 広島市東区光町 2-9-24-205 TEL082-262-1550 FAX082-261-5059
ブログ//h-kenroren.cocolog-nifty.com// E-mail/bwz23598@nifty.com

「平成 30 年 7 月豪雨」
すさまじい被害地域が広島県内全域に

■7 月 10 日、県労連広島県医労連組合員より要請のあった地域（広島市安佐北区口田5 ）を訪問しました。その地域は、丸太が家に突っ込み、流木が多数氾濫していました。すでに重機等（個人で依頼）が動いていることから、支援はその後ということになりました。

この地域から1 0 m移動すると全く被害はなく、無常さも感じました。

■7 月 10 日、広島民商河辺尊文氏宅を訪問。（広島市安佐北区口田1 ）。被災から 3 日目で、すでに部屋の中の土砂は片付いていました。河辺さん（中央）は、今回は水の上がるのが早く、30 分くらいで床上になった。車を移動することもできなかった」と話されています。

部屋の家具やテレビはすべて廃棄するので、その時は手伝ってほしいとも言われていました。回りでは、高校生のボランティアが大勢活動していました。

震えながら一晩を過ごした（被災者より）

＝口田地区でボランティア活動＝

7 月 11 日、安佐北区口田小学校の口田ボランティアセンターに川后、門田の二人が参加しました。

10 名で1 グループを作り、口田小学校の裏の住宅に入りました。この地域は、床上浸水をした場所です。最初の家はあと数センチで床上浸水を免れ、7 年前に建てた家ということで、空気口が上部についていることから、床下の浸水も

免れたということです。ただ、家の周りには数百の土のうが散乱しており、それをリレーで移動させました。ボランティアは初めてという人も多く、土のうの持ち方もアドバイスをしながら行いました。

土のうも相当重く、「運ぶ人の気持ちになって、半分ぐらいにしてほしいね」と皆、悲鳴を上げていました。

続いて入った家は、床下浸水でしたが、床下の土砂をはいつくばって撤去。すべては終わりませんでしたが、明日につなげた活動でした。その家で、被災にあった高齢の女性から当時の様子を聞きました。「どんどん水が上がってきたので、二階に上がったが、一晩震えながら過ごした」と当時の様子を語られていました。

道を隔てた、向かいの家は少し低い立地のため、1メートル以上水が入り、家の中はぐちゃぐちゃの状況。

家の人は、「まだごみの廃棄場が決まらないので、家の中のものを移動することができない」と困惑され、隣の方は、行政がどこまでしてくれるのか判断ができないと話されていました。

■ボランティアの心得

1 、服装　長ズボン、長袖（左の人は失格）、帽子、タオル
　マスク（数枚）、手袋（軍手よりゴム手袋が良い）
カッパ（床下に入り這いつくばる覚悟のある方は）
ゴーグル（床下に入る勇気のある方は）
着替え（ただし着替える場所はありません）
長靴、日焼け止めなど

2 、作業は、土砂かきだけでなく「土のう運び」が必ずあります。
　服は確実に汚れるので、それなりに。

3 、飲物、弁当（保存に注意）

※多くの高校生がボランティアをしています。私たちのグループにも「一人できました。今日は自習です」という女子高生がいました。昨日、一昨日の作業を見ると、長靴を脱いで裸足でぬかるみを歩く高校生が数名いました。「危ないよ。すぐ履きなさい」といってもはきません（写真の高校生ではありません）。ぜひ様々な場で、最低限のボランティアのルールと服装について徹底したいものです。

■ボランティアセンターの紹介について

準備中も多いことから、次号で行います。地域の活動を報告ください。